

今月のエキゾチック症例(第4回 2023年2月)

## 雄にも?! -モルモットの乳腺腫瘍-

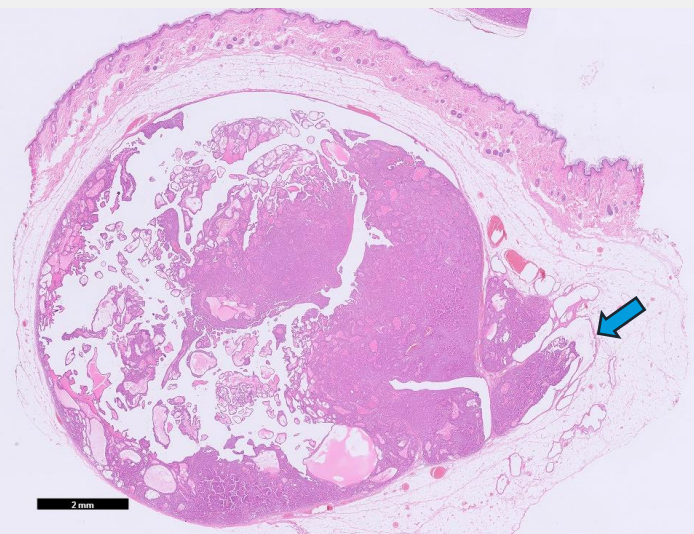
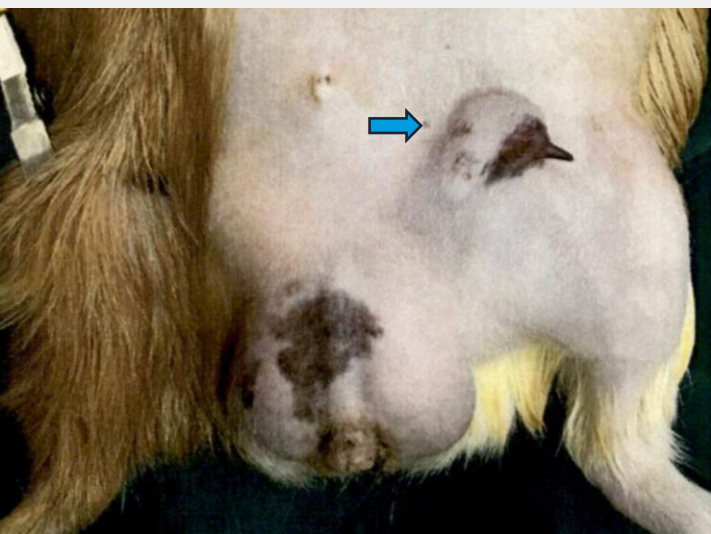


図 1. 肉眼写真。左乳頭直下に3.2×1.4×1.2cmの腫瘍が認められます(矢印)。外部生殖器から雄だと分かります。(写真提供:たかた動物病院様)

図 2. 組織写真、低倍像。乳腺組織内に境界明瞭な腫瘍性病変が形成されています。辺縁の嚢胞状に拡張した乳管内に病変が突出しています(矢印)。

モルモットの乳頭は鼠径部に1対存在します。雄と雌の両方で乳腺腫瘍が発生し、片側性のことも両側性のこともあります。雌では卵巣嚢胞性疾患に伴う乳腺過形成と、腫瘍との区別が必要です。腫瘍の由来は乳管が主体と言われており、良性は腺腫、悪性は腺癌が多いです。良性/悪性の割合は文献によって様々ですが、悪性の割合が高いとの記載の方が多くようです。エストロゲンとプロゲステロン受容体を持ち、ホルモン反応性が示唆されています。

肉眼的に充実性または嚢胞状の腫瘍として認められ、大型化すると潰瘍化します。組織学的には、良性の腺腫は管状・管状乳頭状・小葉状の増殖パターンを取ります。悪性の腺癌は、細胞密度や異型性を増して、増殖活性が高く、浸潤性を示します。

悪性の腺癌は、局所侵襲性により完全切除が困難なこともあります。病期の後期には領域リンパ節や胸腔内への転移が起こり得ます。

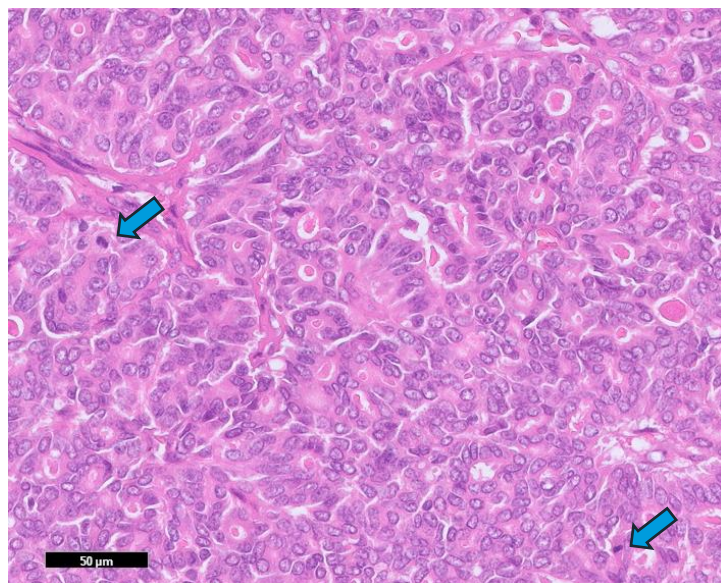


図 3. 組織写真、高倍像。乳腺上皮由来腫瘍細胞が好酸性分泌物を容れる小型腺腔を形成しながら密に増殖しています。腫瘍細胞の異型性は軽度で、有糸分裂像(矢印)も散見される程度です。「乳腺単純癌、低悪性度」と判断しています。

### 診断医からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

昔飼っていたモルモットを取り上げました。ずんぐりした体つきやキュイキュイという鳴き声がかわいらしいですが、乳頭の数だったり、指/趾の数だったり、偽好酸球だったり、奇天烈なところが多いネズミだと感じます。羊毛フェルトのパペットアニメの影響で飼育頭数が増えるかもしれませんね。

### 参考文献

1. Pathology of Small Mammal Pets. 2018. Wiley-Blackwell.
2. Ferrets, Rabbits, and Rodents Clinical Medicine and Surgery. 2021. Elsevier.
3. Exotic Animal Oncology, Veterinary Clinics of North America: Exotic Animal Practice. 2017. Elsevier.



診断医: 中嶋 朋美  
DVM, PhD, DJCVP